

学校教育目標		心身ともに健康で、たくましく生きる生徒の育成		重点目標		基礎・基本の学習内容の確実な定着を図る(学ぶ意欲の高揚) 基本的学習習慣の育成(規範意識を育む)			
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画	
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果と課題)		評価	コメント	改善計画	
				評価	結果(成果と課題)			コメント	改善計画
重点目標に関する評価	確かな学力(基礎基本の確実な定着)	実践8項目を含む生徒による授業評価を年2回実施する。	・授業がわかった・楽しいと答える生徒が70%いる	2	●説明する語彙が少ない為、自分の考えをまとめることが苦手な生徒が多い。 ○学習規律を守り、授業や課題に取り組む事ができた。 ●積極的な表現活動が不十分である。 ●読書量を増やす工夫。	B	・アンケート結果から生徒達が学校が楽しいといっている点が一番ではないでしょうか。 ・家庭での親子の会話が少ないのではないのでしょうか。(船津は昔からかも) ・家庭環境の充実がさらに必要であろう。	・表現活動を積極的に組み入れた授業づくりの推進を図る。 ・小テスト、ドリル学習等の基礎基本の定着に向けた取組は継続発展させる。 ・生徒による学習評価を充実させ、授業改善に活かしていく。	
		「めあて」と「まとめ」のある授業実践を徹底する。	・生徒が「めあて」と「まとめ」を理解できるようになる。	3					
		[考え意見を言う]場を設定し、言語活動の充実に取り組む。	・授業で説明や考えを発言できて、まとめが書けるようになる。	2					
		達成感を持たせる授業展開の工夫として、課題解決的な学習活動の実施	・生徒達が自主的に課題に取り組み、解決に向けて努力したり仲間とともに協力してきたと感じている。	3					
		学習プリントを工夫し、小テスト・ドリル学習の継続的实施	・全ての生徒が学習プリント・ドリル学習に取り組んでいる	3					
	教師の授業力向上	校内授業研修会の充実による指導力の向上	・主題に基づいた全体授業研究会を年2回、その他、全員公開授業の期間を設定し、全員授業公開する。	4	○研究テーマに沿った公開授業を全員実践できた。 ●授業整理会の時間確保が困難で、まとめが不十分であった。	A	・よくがんばっていただいている。 ・研究テーマが対外的に見えにくいのもっと広報してはどうか。	・研究テーマと授業へのつながりを考えた取り組みを図っていく。	
		教師力・指導力向上のため、一人1回以上の専門研修に参加する	・教科研修会と、個人のニーズに合わせた研修会への参加しその成果を授業改善に活かしている。	3					
	学習環境の整備	少人数、TT、習熟度別、課題別など弾力ある学習集団を編成し、指導工夫改善を図る。(特に数学に重点を置く)	・すべての生徒が学習活動に参加し、課題に取り組めるようになる。	3	○「家庭学習強化週間」で小中連携した実践ができ保護者の協力と家庭学習の充実が図れた。 ○宿題も課し家庭学習の定着を図れた。 ●低学力の生徒の学習意欲が低い。	B	・家庭学習強化週間はとってもよい取り組みであり、今後も継続させてほしい。 ・補充学習はよく対応していただいているので効果も期待できると思います。	・小中連携による「家庭学習強化週間」の実践と深化を図る。 ・少人数、TT授業など個に応じた学習指導の充実を目指して取り組む。	
		個に応じた補充学習(昼休み・放課後・長期休業日)の学年毎教科別の実施	・反復繰り返し学習により基礎基本を理解し達成感・学習意欲をもつ生徒が増える。	3					
		家庭と連携して定期考査時に「家庭学習強化週間」を年3回設定し、取組表でチェックし家庭学習の充実を図る。	・毎日、短時間でも家庭学習に取り組む生徒が増える。	3					
健全な社会性の育成(規範意識の高揚)	道徳教育及び「道徳」の時間の充実	担任と副担任による年間35時間の道徳の時間を確実に実施する。	・生活アンケートで生徒の自己概念のポイントが上がる。	2	○教材を活用した実践は十分にできた。 ●より心に響く題材や内容の選択が課題である。	B	・自己概念を伸ばす為には学校だけでは無理。家庭も一緒に取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。	・行事と関連づけた学習の機会を逃がさないような配慮をする。 ・「心のノート」「かがやき」「あおぞら」を積極的に活用し指導の充実を図る。	
		「望ましい生活習慣」「集団生活の向上」「望ましい人間関係づくり」について重点配分した道徳の授業を実施する。	・集団の中で自分の役割を果たそうとする生徒が増える。	3					
		全校集会や学年集会で心に響く職員講話(偉人・歴史人に学ぶ)を計画的に実施する。	・自他ともに仲間を大切に、自主自立の意識が高揚する。	3					
	体験活動の充実	合唱発表会や体育会・文化祭の行事において、生徒主体の運営を体験させ組織的指導を行う。	・生徒の自主性、積極性が高揚し、自尊感情が高まる。行事に積極的に取り組む生徒が80%	4	○意欲的に取り組み、その成果を保護者に発表することができた。 ●体験活動の受け入れの事業所の確保が課題である。	A	・親子や地域との関係が希薄化しており、このような体験活動学習は大変重要でありがんばってほしい。 ・受け入れ先の感想コメントがあればみたい。 ・Mボード発信はよかった	・自己評価をもとに改善策を考えさせ、次へ活かしていく手立てとさせる。 ・受け入れ事業所の見直しと再編に向けた他校との調整を図る。	
		1年「福祉体験学習」2年「職場体験学習」3年「保育体験学習」の事前学習を徹底した体験活動を通して、人との関わり方を身につけさせる。	・体験活動を通して、レポート作成や学習発表会等に積極的に参加する生徒が多くなる。	4					
		地域の福祉の実態を学ばせ、自分にできる具体的な行動を考えさせる(持続発展教育の推進)	・様々な体験活動を通して、自分の将来の進路に対する関心が高まり、自分なりの具体的な行動を考える。	3					
	規範意識の育成	1年「万引き防止」2年「占有離脱物横領防止」3年「性の逸脱行動防止」、全学年「薬物乱用防止」の授業を、道徳、学級活動の関連授業として効果的に実施する。	・社会のルールを守ることの大切さを実感し、規範を守ろうとする意識を持つ生徒が増える。	3	○全校生徒で行うあいさつ運動は、船津生徒の誇りある活動になっており、規範意識は高まってきた。 ●地域文化への取組も大変であるがこれからも継続していく事が大切である。	A	・港まつり参加は30年前から続いているから今後も続けてください。 ・再編時の地域行事への参加継続、対応が心配であります。	・非行防止に向けて、個々の生徒と向かい合った粘り強い指導の徹底を図る。 ・最後の船津中として生徒・保護者・職員の地域行事への積極的参加を促す。	
		「港まつり・中学生みこし」の地域行等の協力と公民館行事への積極的参加を推進する。	・地域や地域文化を愛する意識が高まる。	4					
年間を通して生徒会主催による「あいさつ運動」を行うことにより人間関係作りを図る。		・元気よくあいさつができ、人との繋がりと人への思いやりを意識する生徒が増える。	4						

◇ 学校評価について

【自己評価】	4：目標達成(90%以上)	3：ほぼ達成(70%~90%)	2：もう少し(60%~70%)	1：できていない(60%未満)
【学校関係者評価】	A：自己評価は適切である	B：自己評価はほぼ適切である	C：自己評価は適切でない	D：自己評価は不適切である